

# 激変する社会に対応し、 四国経済に活力を



特別  
インタビュー

日本銀行高知支店

藤原文也 支店長

聞き手



株式会社東京商工リサーチ  
四国地区本部長  
兼 高松支社長  
波田 博



株式会社東京商工リサーチ  
高知支店長  
清水 記行

## 足もとの日本経済全体の概況

足もとの日本経済は、既往の資源高の影響などを受けつつも、持ち直しています。海外経済は回復ペースが鈍化していますが、輸出や鉱工業生産は、供給制約の影響の緩和に支えられて、横ばい圏内の動きとなっています。また、企業収益は全体として高水準で推移しており、設備投資は緩やかに増加しています。この間、雇用・所得環境も緩やかに改善しています。今年の春季労使交渉では、労働需給の引き締めや物価上昇を賃金に反映させる動きが広がっていることなどをを受けて、昨年を大きく上回る賃金上昇率が実現する見込みです。こうしたもとで、個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、感染症の影

響が減衰するもとで、これまで抑制されていた需要が顕在化する動きもあって、対面型サービスを中心に緩やかに増加しています。

## 足もとの高知県経済の概況

高知県経済も、全国と同様に持ち直しています。このけん引役は、個人消費と観光です。個人消費については、新型コロナウイルス感染症の5類への移行もあって、感染症への警戒感が一段と緩和するもとで、対面型サービスがはっきりと改善するなど、持ち直しています。また、人流が回復するもとで観光需要も増加しています。

他方で、製造業の生産は、海外経済の回復ペースの鈍化を受け、需要が弱含んでいることや、一部の

企業において原材料不足が続いている影響等から、持ち直しの動きに一服感がみられています。

こうした景気の動きを、2023年6月に実施した短観の調査結果で確認してみると、足もとの企業の業況感を示す指数(業況判断D.I.<全産業>)は、前回3月の+15から、今回は+20の「良い」超に改善しました。これは、2014年3月(+22)以来の高い水準です。

今回調査において足もとの業況判断D.I.が改善した背景には、感染症の影響緩和や観光需要の増加が幅広い業種の業況改善につながったことや、建設の一部の企業において受注の獲得が進んだことなどが挙げられます。

まず、前者について申し上げますと、全国旅行支援による下支えや連続テレビ小説「らんまん」の放映効果もあって日本人観光客が増加しているほか、クルーズ船の寄港数の増加等からインバウンド客も増加しています。また、宴会需要も回復傾向にあります。こうしたことから、宿泊・飲食サービス業の業況がはっきりと改善しています。この間、一部の製造業においても、食料品関係等では、個人消費や観光需要の増加を背景に商品の引き合いが増えていることなどから、業況判断を引き上げる動きがみられています。また、後者については、一部の企業において公共工事の受注を獲得したことから、業況判断を引き上げる動きがみられています。

## 原材料価格や電気料金、 人件費等の上昇の影響

6月短観において、原材料等の仕入価格の動向を示す指数(仕入価格判断D.I.<全産業>)は+52の「上昇」超となっており、引き続き高い水準にあります。他方、製商品・サービス等の販売価格の動向を示す指数(販売価格判断D.I.<全産業>)は+39の「上昇」超となり、前回から5ポイント拡大しました。前回調査の+34が、統計で確認できる1991年以降の最高値でしたが、今回は前回に続いてピークを更新しました。このように、原材料価格の上昇を受けて、県内企業の製商品・サービス等への価格転嫁は着実に進捗しているとみられます。

ただし、「価格転嫁は進んでいるが、コスト上昇分をフル転嫁はできていない」とか、「電気料金などの間接費の上昇分は顧客には見えずらいため、販売価格に転嫁しづらい」という声も引き続き多く聞かれており、収益の下押し要因となっています。

この間、県内企業においても、物価高への対応や人材確保・繋留のために、賃上げの動きが広がっています。やや詳しくみると、過去を大きく上回るベースアップを実施する動きも目立っているほか、一部の企業からは「初めてベースアップを実施した」との声も聞かれています。

このように、原材料価格や電気料金等の間接費、



人件費などの上昇の影響から、2023年度の経常利益計画(6月短観、全産業)は、前年度比▲7.5%の減益計画となっています。

こうしたもと、企業の設備投資動向をみると、中長期的な観点から必要な投資は着実な実施が計画されているほか、現時点では、原材料価格の上昇等を受けた収益悪化や先行き懸念等を理由とした設備投資の中止・先送りといったネガティブな動きは限定的であり、前向きな景気循環のサイクルは維持されていると考えています。今後、当面の間は物価高が続くとみられるなかで、こうした前向きな循環の動きが維持されるか、注視していく必要があります。

### 高知県経済の見通しと留意点

先行きの県内景気については、企業・家計の両部門において、所得から支出への前向きな循環が続くもとで、持ち直しの動きが続くとみています。ただし、こうした景気の見通しについては、上振れないし下振れる可能性がある点には注意が必要です。その際の主なリスク要因は3点あると考えています。

1点目は、原材料価格やエネルギー価格上昇の影響と、企業の価格転嫁スタンスについてです。先程申し上げたとおり、既往のコスト上昇分を価格転嫁する形で、今後も総じてみると価格転嫁が進んでいくとみられます。ただし、企業からは「価格改定交渉に時間を要するため暫くの間は販売価格が据え置きとなる」とか、「短期間のうちに何度も値上げを実施することは難しい」といった声も相応に聞かれており、価格転嫁の継続性については引き続き不透明感がみられます。今後、原材料価格やエネルギー価格の変化を受けて、企業がどのような価格設定行動をとるか、人手不足が続くもとで賃金コスト上昇部分を含む価格転嫁にまで波及するか、そしてその結果としての企業収益の動向について、注意深くみていく必要があります。

2点目は人手不足についてです。足もとと感染症の影響が緩和するもとで非製造業を中心に需要が回復していることを受けて、企業の人手不足感は強い状況が続いています。この点、6月短観における企業の人手の過不足感を示す指数(雇用人員判断D.I.<

全産業>)は▲34の「不足」超となっており、既往ピークに近い水準となっているほか、先行きは一段と人手不足感が強まる見込みとなっています。足もと例えば宿泊業からは、「人手不足により夕食付プランの提供ができない」といった、人手不足を理由とした需要の取りこぼしが発生しているとの声が聞かれています。今後、こうした動きが広がらないか、ひいては人手不足が景気の下押し要因とならないか、丹念にみていきたいと思えます。

3点目は海外経済の影響です。足もとの海外経済は、グローバルなインフレ圧力が残存し、各国中央銀行の利上げが続く中で、回復ペースが鈍化しています。こうした影響が波及する形で、足もと県内製造業の一部において、海外向け受注が弱含んでいます。先行きは、昨年大きく高まったインフレ圧力が低下していくにつれて、海外経済は再び持ち直していく、というのがメインシナリオだとみています。ただし、グローバルな金融環境の動向やウクライナ情勢の帰趨等によって下振れるリスクがあるため、先行きの不確実性は極めて高いとみられます。したがって、海外経済の動向が当地に及ぼす影響について、注視していく必要があります。

### 高知県の中小企業経営者へのメッセージ

県内の企業経営者からは、やや長い目でみて、当地経済の先行きを不安視する声も聞かれます。この背景としては、少子高齢化や人口減少などの課題に直面するなかで、県内経済の縮小や次世代を担っていく人材の不足が懸念されていることがあると思われます。今後、少子高齢化の問題は避けられませんが、こうしたピンチはチャンスでもあります。これを契機に、賃上げを含む人的投資やDXをはじめとする省力化投資が一段と進めば、当地経済の持続的な発展につながると考えられます。実際、既に当地の多くの企業が工夫を凝らした取り組みを始めているほか、行政や金融機関、経済団体も、「地産外商」や、デジタル技術等を活用した生産性向上に向けた取り組みを支援するために、様々な施策を講じています。高知県経済を支える関係者の皆さんが一致団結して挑戦し、地方経済の抱える課題解決の途を全国に先



駆けて見出していくことを期待していますし、高知県にはそれを実現できる底力があると思っています。

## 高知県に対する印象

私は昨年6月に高知県に赴任しました。県内各所を巡り、各地の自治体や企業経営者の方々と意見交換をさせていただいたほか、プライベートでも様々な観光地を訪問しました。その過程で、当地には他県に知られていない魅力が多くあることに驚きました。例えば、首都圏や関西圏といった一大消費地からの距離の遠さに伴う物流コストの高さをものともしない高付加価値の製品を生み出しているニッチトップの製造業や、東京では味わったことのない新鮮で美味しい食材とそれを活かした飲食店、質の高いサービスを提供している宿泊や観光といったサービス業などです。また、印象深かったのは、よさこい祭りです。昨年初めて観覧しましたが、コロナ禍での部分開催とは思えないほどの熱気と迫りに圧倒されました。今年のよさこい祭りは4年ぶりにフル開催となるほか、第70回という記念すべき開催でもあるた

め、盛り上がり大いに期待しています。こうした他県にはない魅力的な観光資源が高知県にはまだまだたくさんあると思います。県外から来た者として、高知県の素晴らしさを県内外に発信していくのも、私の役割のひとつだと思います。今後も高知県の持続的な発展に向け、微力ながら貢献していきたいと思っています。

## 日本銀行高知支店長 藤原文也氏 略歴

1997(平成 9)年 3月	東京大学法学部卒業
4月	日本銀行入行
2012(平成24)年 7月	国際局企画役
2013(平成25)年 3月	政策委員会室企画役
2016(平成28)年 7月	総務人事局企画役
2018(平成30)年 6月	金融機構局金融第2課長
2019(令和 元)年 6月	システム情報局業務システム開発課長
2020(令和 2)年 7月	総務人事局人事課長
2021(令和 3)年 6月	総務人事局総務課長
2022(令和 4)年 6月	高知支店長

